

光星が東北王者



【東北大会決勝・八学光星—仙台育英】8回を7奪三振2失点と好投した八学光星の先発・洗平比=きたきんボールパーク



14大会ぶり2回目の夏の東北大会優勝を喜ぶ八学光星ライン

夏の前哨戦となる春季大会。県大会は今年から、県内6地区で行っていた事前の予選を廃止し、全チーム参加の「富県大会」に移行した。48チーム（55校）が出場し、八工大が12大会ぶり7回目の優勝を飾った。八工大は初戦から準々決勝まで3試合をコールド勝ち。八学光星との決勝は、スクイズやバントヒットと小技を駆使した攻撃で逆転勝ちを収めた。5回を無失点で抑えたり、リーフ白石の力投も光り、総合力の高さを県大会を制した。

一方、県大会で苦杯をなめた八学光星は、東北大会決勝で昨夏の甲子園覇者・仙台育英を破り、14大会ぶり2回目の頂点に立った。大会を通じて、最速140km/h台後半の直球を誇る岡本、洗平比の2年生左腕が好投し、打線も一強打の光星一の名通りの攻撃を披露。投打がかみ合い、東北各地の強豪を退けた。